

『循環型社会形成のための田川市民の意識・ニーズの調査』概要報告

福岡県立大学 佐野麻由子

## 1. 調査の目的と概要

福岡県立大学人間社会学部公共社会学科では、(1) 社会調査の設計や実施に関わる専門知識を身につけ、社会的課題を公共性の観点から整理できること、(2) 社会的課題が生じるメカニズムについて調査の知見に基づいて論理的に説明し、対応を提示できること、(3) 自ら調査テーマを設定し、主体的に調査の設計、実施に携わることができること、(4) 公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができること、(5) 社会的課題を取り扱う際に、社会科学的に的確に観察、調査、分析できることを教育目標に社会調査実習を運営しています。特に、近隣地域の課題を取り上げ、調査結果を地域に還元することを目標に実習に取り組んでまいりました。

今年度は、担当教員である佐野がメンバーとして参加している田川市産業振興会議・実務責任者会議との協働で実施しました。

田川市産業振興会議・実務責任者会議は、「中小企業の経営基盤の強化や市民やそこで働く人々が生きがいと働きがいを見出すことができる豊かで住みよいまち」の実現に向け、2015年制定の田川市中小企業振興基本条例に基づき2016年に設置された会議です。同会議は、市内中小企業2,104社の実態を捉えるために「田川市中小企業振興基本調査」を行い、その調査結果を基に、2019年に企業、市民、学校・大学、関係団体、行政が連携して進むべき指針とする「田川市中小企業振興ビジョン」を策定しました。そして、「田川市中小企業振興ビジョン」を実現させるための次なる一歩として着手することになったのが、田川市にお住まいの皆様への田川に対するお考えや生活上の困りごと、ニーズの把握でした。

本調査では、中小企業経営者が経営の基本を学ぶ場の開設を担う第1部会、地域の課題を解決するソーシャル・ビジネスの推進を担う第2部会、生活者と事業者をつなぐ地域プラットフォームの構築を担う第3部会、地域で若者を育て地域に若者を残す活動を担う第4部会の活動を汲んで、大きく次の質問項目を設定しました。

1. 地元企業に望む社会貢献はどのような分野か
2. どのような生活上の困りごとを抱えているのか、どのような事業へのニーズがあるのか
3. 市民の自治意識はどのようなものか、地域活動への参加を促進するための手段、きっかけは何か
4. 市民の地域への愛着、居留意向はどのようなものか、それはどのような条件に影響を受けるのか
5. 市民のSDGsへの認知度、SDGsの実現に向けた潜在性はどのようなものか

調査の概要は以下のとおりです。

調査名称 循環型社会形成のための田川市民の意識・ニーズの調査  
調査対象 田川市に居住する調査当時18歳～70歳の男女有権者  
標本規模 1200  
抽出方法 選挙人名簿を標本抽出台帳として用いた2段無作為抽出法  
調査時期 2021年10月8日～11月3日

回収状況 有効回収数 303 通 (有効回収率 25.3%)

※あて先不明 13 通を除く有効回収率 25.5%

## 2. 調査の範囲／対象

本調査では、田川市を調査対象地域とし、同地域に居住する調査当時 18 歳～71 歳未満の男女有権者を調査対象としました。母集団となる調査地域各区の有権者数を表 a に示しました (2021 年 7 月に選挙管理委員会事務局から得たデータによるもの)。

第 1 次の抽出単位として、確率比例抽出法を用いて調査対象地域の 20 の投票区から合計 60 の地点を抽出しました。その結果が表 b です。第 2 次抽出として、第 1 次抽出した 60 の地点から、それぞれ 20 名の個人を系統抽出法によって抽出し、合計 1200 名を調査対象者として確定しました。これらの抽出作業は、調査対象地域とした田川市選挙管理委員会事務局を訪問のうえ、選挙人名簿抄本を閲覧して行いました。

表 a 調査地域各区の有権者数

投票区名	計	%
第 1 投票区	2891	7%
第 2 投票区	1732	4%
第 3 投票区	3010	8%
第 4 投票区	1986	5%
第 5 投票区	1470	4%
第 6 投票区	1985	5%
第 7 投票区	1865	5%
第 8 投票区	2732	7%
第 9 投票区	2320	6%
第 10 投票区	1834	5%
第 11 投票区	3286	8%
第 12 投票区	916	2%
第 13 投票区	1411	4%
第 14 投票区	1025	3%
第 15 投票区	1488	4%
第 16 投票区	2262	6%
第 17 投票区	2429	6%
第 18 投票区	1738	4%
第 19 投票区	1983	5%
第 20 投票区	596	2%
	38959	100%

表 b 第 1 次抽出の結果

投票区名	抽出地点数	%
第 1 投票区	5	8%
第 2 投票区	2	3%
第 3 投票区	5	8%
第 4 投票区	3	5%
第 5 投票区	2	3%
第 6 投票区	3	5%
第 7 投票区	3	5%
第 8 投票区	5	8%
第 9 投票区	3	5%
第 10 投票区	3	5%
第 11 投票区	5	8%
第 12 投票区	1	2%
第 13 投票区	3	5%
第 14 投票区	1	2%
第 15 投票区	2	3%
第 16 投票区	4	7%
第 17 投票区	4	7%
第 18 投票区	2	3%
第 19 投票区	3	5%
第 20 投票区	1	2%
合計	60	100%

### 3. 調査の成果

以下に調査結果の概要をまとめました。

#### (1) 回答者の概要

回答者の性別は、男性 41.7%、女性が 58.3%でやや女性が多い。年齢は、10～20 代が 7.8%、30 代が 11.3%、40 代が 19.5%、50 代が 21.2%、60～70 代が 40.3%と若者の回答が少ない。婚姻については、既婚（配偶者あり）は 70.3%、既婚（離別）が 9.0%、既婚（死別）2.1%、未婚 18.6%と回答者の 7 割が既婚者であった。

居住地は、金川（16.4%）、伊田（16.1%）、田川（7.0%）、中央（4.9%）、鎮西（16.4%）、後藤寺（18.5%）、弓削田（16.1%）、猪位金（4.2%）、その他（0.3%）であった。

居住年数については、20 年以上が回答者の半数を占めた。

居住理由については、「もともと住んでいた」が 52.8%、「配偶者の出身地」が 22.0%と回答者の 7 割近くが地縁のある方となっている。そのほかに、「自分または家族の通勤・通学に適していた」が 11.9%、「家や土地の価格などが適当」が 4.5%、「家業を継ぐ/家を守るため」が 3.8%となっている。

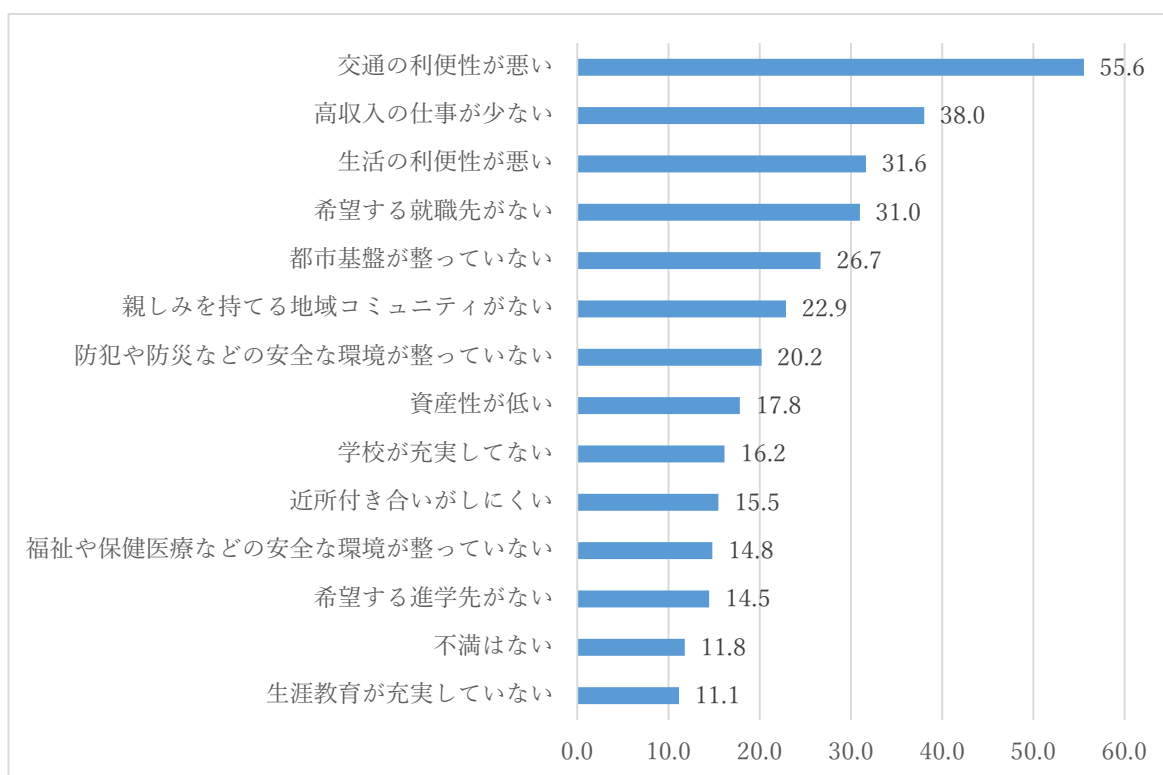
回答者の半数以上が田川市内に本家や檀家、お墓や納骨堂をもっていた。

回答者の出身地については、現在地が 14.7%、現在地と同じ市町村が 34.3%、県内の他市町村が 42.0%、他県が 9.0%で、回答者の半数が田川市の出身であった。

#### (2) 生活上の不満・心配に思っていること

Q.生活する上で不満に思っていること（複数選択）

回答者において割合の高かった順に、交通の利便性の悪さ（55.6%）、高収入の仕事の少なさ（38.0%）、生活の利便性の悪さ（31.0%）となっている。

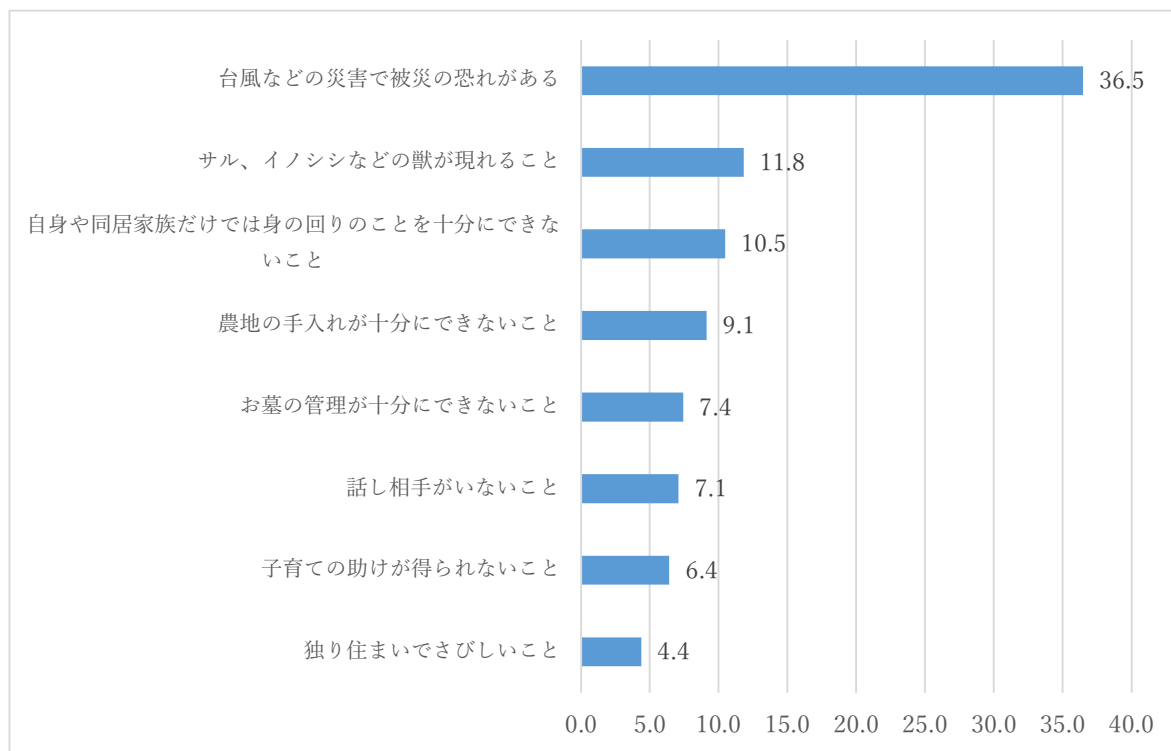


「その他」の自由記述欄には、以下の項目が挙げられた。

- 家賃が高い(2件)
- 公害(悪臭がする)(2件)
- 戸建てを立てられる土地がない
- 雑草やごみが散らかっている
- 仕事をしているためだと思いが、地域生活について考えることがほとんどない
- 土日もコミュニティバスが欲しい
- 近隣がゴミ焼き、悪臭で困っている
- 治安
- 通学路に危険が多い
- 企業誘致の政策が見えない
- 高齢者のスポーツ施設がない
- 国道201号線の渋滞、長浦・東大橋交差点
- 生活保護者が多い
- 未婚者にやさしい制度がない。高齢者や子供にはあるのに不公平だと思う。

Q.生活する上で心配に思っていること(複数選択)

生活する上で心配に思っていることについては、台風などの災害で被災の恐れがある(36.5%)などが挙げられた。



「その他」の自由記述欄には以下の項目が挙げられた。

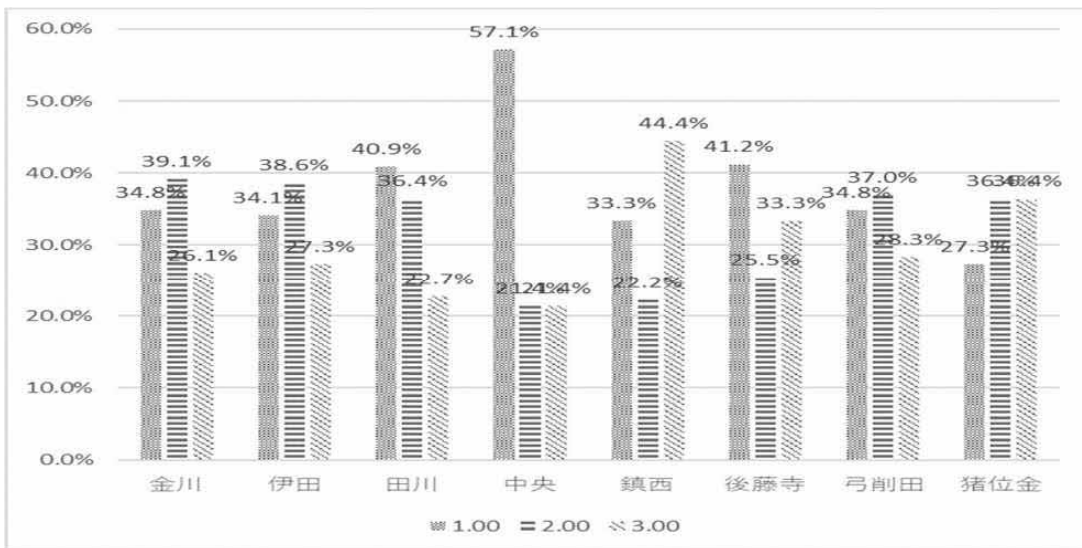
- マナーが悪い
- 一人住まいであるため、災害時の対応が心配
- 水害
- 賃金が少ないため結局北九州に行っている。出かける場所もほかの地区と比べ少ない
- 田川市内での様々な情報を知りたい
- 公害(臭い)(2件)
- 実家の親介護)
- 住宅が密集してくる
- 誰も住まなくなった実家の管理、庭の手入れ等
- パートナーがいなくなったり、一人になったら大丈夫かな?
- 一人住まいで年齢的に不安

- 給料から引かれる税金が高い
- 空き家が多い
- 高齢になって生活ができるのか
- 今のところ年金生活が不安
- 市外に出ていく若者が減ってほしい
- 治安が悪い
- 自分が死んだ後の土地・家屋の処分
- 将来の生活
- 隣の会社にゴミが日々増えている
- 老後の健康生活について

Q.生活する上で心配に思っていること（複数選択）についての地域別の分析

「居住地×自身や同居家族だけでは身の回りのことを十分にできないこと」からは、後藤寺（17.6%）、中央（14.3%）で特に課題があることがうかがえた。田川市（令和2年）『田川市地域公共交通網形成計画』で指摘されているように中心部（田川後藤寺駅及び田川伊田駅周辺）に高齢者が集中していることを反映した結果であるといえる。居住地×買い物弱者※の分析では、鎮西・後藤寺・猪位金・弓削田において買い物弱者が見られる傾向にあった。

※Q3.あなたが生活する上で不満に思っていることで生活利便性を選択し、Q5.心配に思っていることで「自身・同居家族では身の回りのことができない」を選択し、病気やケガで外出が困難を挙げた人を買い物弱者とした際の地域別分布。該当ひとつにつき1点。最高3点とした。



統計的に有意とは言えなかったが、買い物弱者が比較的多いと思われた鎮西・後藤寺・弓削田は金川に次いで話し相手がいなくて思っている人が多いことが読み取れた。買い物のしにくさがコミュニケーションの充実に少なからず関係しているとも読みとれる。

買い物難民を解消するソーシャルビジネスの可能性

日用品を買う店舗までの距離が遠いほど、月額で宅配されるサービスを利用したいと回答する傾向。日用品を買う店舗までの片道が10分未満でサービスを利用したい人は24.6%、10分～19分で31.1%、20分～29分で33.3%、30分以上で71.4%だった。年齢とサブスク利用の意向については統計的な有意差はなかった。

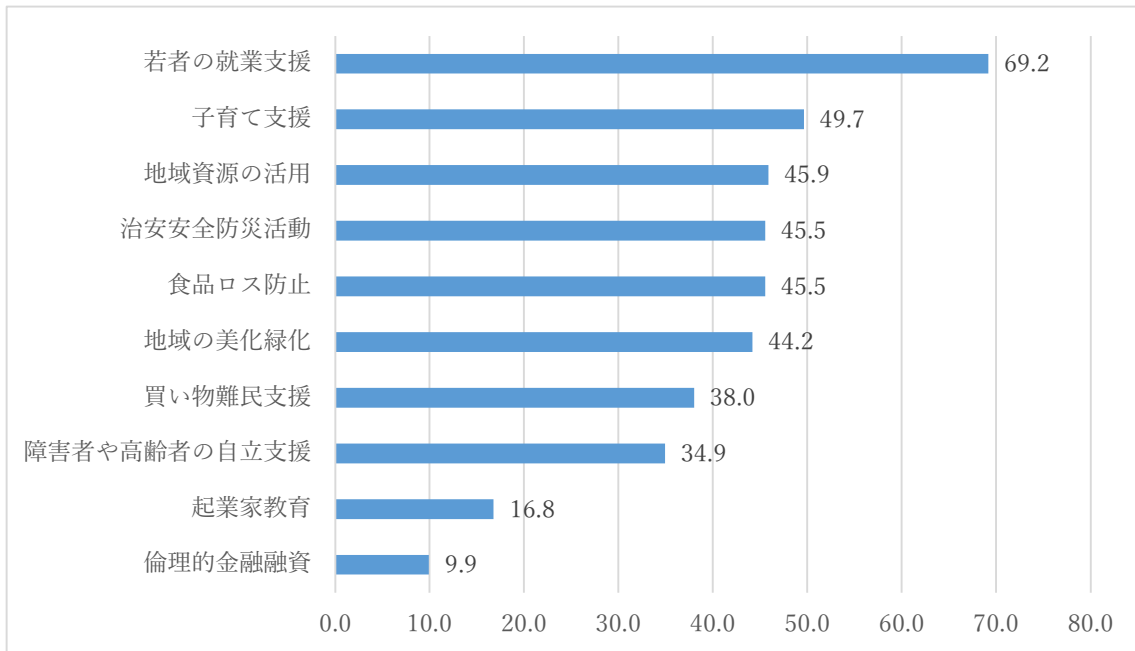
「居住地×子育ての助けが得られないこと」からは、中央（14.3%）、伊田（13.6%）で特に課題があることがうかがえた。

Q 商店街をよく利用するか

よく利用すると回答した人は3.4%であった。利用しない理由について最も多かったのは、「営業時間と自身の生活がかみ合わないため」が29.7%であった。

Q 地元企業に望む社会貢献の分野

地元企業に望む社会貢献の分野として、多い順に若者の就業支援（69.2%）、子育て支援（49.7%）、地域資源の活用（45.9%）、治安安全防災活動（45.5%）食品ロス防止（45.5%）、地域の美化緑化（44.2%）等が挙げられた。自由記述では、「未婚者にやさしい制度がない。高齢者や子供にはあるのに不公平だ」といった意見もあることから、幅広い年齢層・多様な属性を考慮したサービスへの需要があることが確認できた。



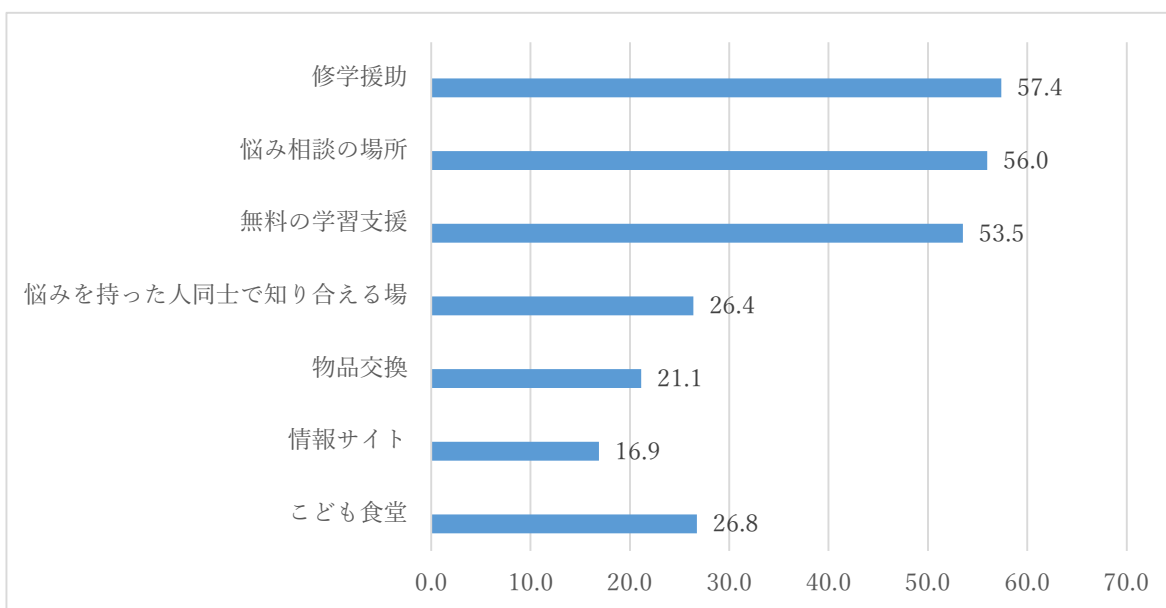
Q 企業の社会貢献についてご意見があれば教えてください（自由記述）

- 企業が学校（中学校）と連携し「働く」ということ、キャリア教育を行う
- 企業が何をもめたいのか、企業は何か社会貢献になるのか、偏りのない貢献をするには具体的な提案・提示が必要なのかも。そもそも何をしている・何が出来る企業なのか周知する場を設ける(市のホームページ・広報等)
- 営業用車両の運転マナーが悪い。会社を背負っているという自覚が一人一人に必要。
- 地元還元する
- 働く場所をどんどん増やしてほしい
- ゼロカーボンへの取り組み、核融合等の新エネルギーの開発
- それぞれの企業の特徴、得意分野が地域のためになることをすすめることで皆が住みよい市になってほしい。
- どのような企業がありどんな社会貢献をされているのかが全く分からないので（←私が知らないだけかもしれませんが）もっといろいろなところでPRをしてほしい。

- どの企業がどのような活動をしているのか知りません。どのようなところに情報が発表されているのか知りたい。
- まずは従業員を育てる
- 一番に雇用の拡大を望む。行政にはそのための企業育成、援助を積極的に行ってほしい。
- 企業が社会貢献を企業イメージの為にするのではなく、本当に1人1人の為に役立ちたいと思う心で行ってほしい。
- 企業の社会貢献はこれまでのことまたこれからのことなど全く私の周りには入ってきません。活動範囲が狭いのではないのでしょうか。
- 県大生をたくさんISで受け入れてほしい
- 現在企業にはコロナやその他の影響で余力がないと思います。それゆえにお互いに力を合わせて行うことが必要だと考えます。役所や各団体で情報をやり取りすることが望ましい
- 高齢者の働く場を多く増やしてほしい
- 子育て応援企業であっても子育てに理解のある職場ではないそういう企業に対して「子育て応援」とアピールしてよいのか
- 市役所下の歩道の除草作業風景を見たことがない。市の職員がしているところを見たことがありません。
- 社会貢献がアピールのためなど手段として行われることに違和感
- 社会貢献も大事ですが、田川にもっと企業誘致をしてほしいです。
- 障害者、高齢者（元気な）に短時間、パートかバイトを
- 正しく不正無き実施！
- 清掃に気を使っていると思うのですが、さらに敷地内とその周囲の清掃、環境保全に力を入れてもらえば、立派な社会貢献になります。
- 地元の特徴を生かして全国にアピールする戦術
- 中小企業に係わらず、すべての会社・店舗にきちんと伝えるべき
- 田川も企業が社会貢献している姿を見たことがない
- 働きやすい街・環境をもっと作ってほしい

Q 子育て支援の充実のために必要だと思うこと

修学援助（57.4%）、悩み相談の場所（56.0%）、無料の学習支援（53.5%）が挙げられた。



### (3) 地域活動

地域活動については、回答者の三分の一しか参加しておらず、特に10～30代の若い世代では10%程度しか参加していなかった。買い物が容易にじづらい人ほど近所付き合いがしにくいという知見も得られた。

### (4) 居住意向

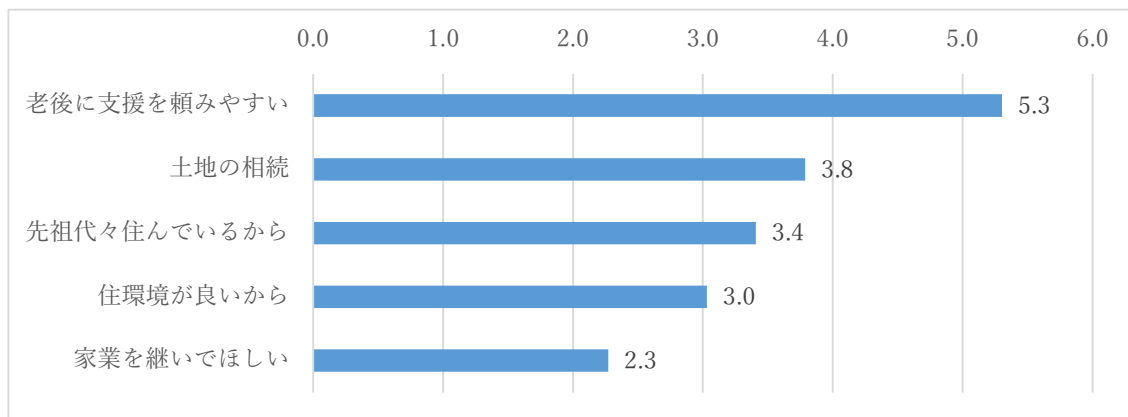
居住意向については、「今後も田川市に住み続けたいか」に対しまあそう思う(43.3%)とそう思う(31.1%)を足して74.4%が住み続けたいと回答した。年齢が高いほど意向が高く、若者においては低くなる傾向がみられた。若者ほど、希望する進学先が少ないと感じているという調査結果より、希望する進学先の少なさが居住意向に影響を与えていることがうかがえた。

#### Q 田川以外で就職を勧められたことがあるか

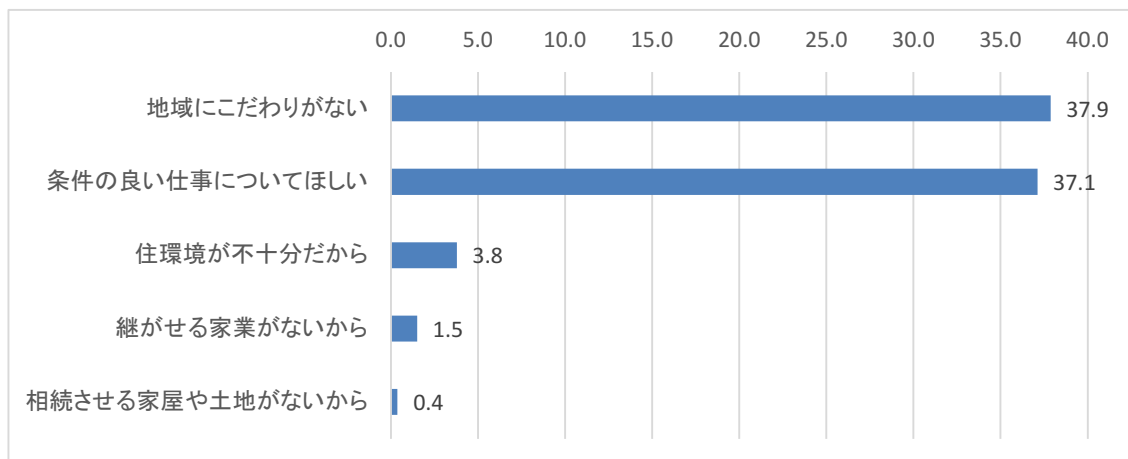
37.3%があると回答した。勧めた人については、家族(38.1%)、友人(34.5%)、教員・塾講師(24.8%)、親族(18.6%)、地域の人(10.5%)と家族や友人が勧めていることがわかった。

#### Q 子どもの田川市での就職を望むか

「子どもの田川市での就職を望むか」については、「望まない」と回答した人が回答者の79.4%を占めた。望む理由として多かったのが、「老後の支援を頼みやすい」であった。



他方、望まない理由としては、「地域にこだわりのない」(37.9%)、「条件の良い仕事についてほしい」(37.1%)などが挙げられた。





#### (5) SDGs への認知度

田川市民の SDGs への認知度について、「知っている」(24.1%)と「少し知っている」(26.4%)を合わせて 50.5%であった。マイバッグの利用(81%)やごみの分別(91%)などは実践している人が多い傾向にあるが、省エネ(24%)、地産地消(20%)、自然エネルギーの導入(16%)、4R(リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル)の実践(14%)は低い傾向にあり、課題だということがわかった。